

第3学年2組 道徳学習指導案

第1校時 場所 教生講義室 指導者 田中 恒次

1 主題 いきいきと生きる 3-(2)

資料名「100万回生きたねこ」 佐野洋子 作 / 絵 講談社

2 主題について

(1) 「生命を大切にする」ということを、次の2点から考えてみたい。一つは生命を守るという方向からで、健康や安全に気を配ることで実現が可能となる。二つめは生命を十分に生かすという方向からで、いきいきとした生き方を目指すことで実現が可能となる。子どもたちには、前者のような認識はある程度深まってきている。しかしながら、後者のような積極的な見方・考え方をもっている者は少ない。そこで自分たちの生命には、いきいきと（主体的に）生きる力が備わっているということに気付かせたい。また、そのような力を十分に発揮することは、自分一人によってできるものではないことにも気付かせたい。

人がいきいきと生きることができるのは、周りの人との豊かなかかわり合いの中で、自分に備わっている力（主体性）が引き出され、そのことに喜びや充実感、希望や感謝などを感じる時である。子どもたちの生活の中にも、そのような場面があることに気付かせることにより、生命についての見方・考え方を広げ、自他の生命を尊重していこうとする意欲を高めていきたい。

(2) 実態は次の通りである。（調査人数 39名）

「道徳の時間が好き」と答えた子が33名。主な理由は次のようなものであった。

- ・友だちの意見がいろいろ聞けて参考になる。
- ・人の気持ちを考えるのが楽しい。
- ・お話を読んで、いろんなことを考えることができるから。

少しずつであるが、互いに意見を交流し合うことによって、自分の考えを深めていこうとする意識も芽生えてきている。

「生命」は大切なもの、守らなければならないものという認識は、子どもたちほぼ全員が持っている。しかしながら、自分たちの生命には、人間としてよりよく（いきいきと）生きようとする力が備わっているといった見方・考え方をもっている者は少ない。

(3) 資料について

この話に登場するねこは、百万回も生きてきた。百万回死んで、百万回生きることができたのである。だから、ねこは死ぬのなんか平気だった。その時々の飼い主にかわいがられるが、飼い主への感情は冷淡なものだった。そのねこは、百万回目に生きたとき白いねこに出会った。そして、白いねこ家庭をもち、子どもたちを育てた。やがて、子どもたちは独立していった。ねこは、白いねこと一緒にいつまでも生きていたいと思った。ところがある日のこと、白いねこはとうとう年老いて死んでしまった。それを見たねこは泣き続けて死んでしまった。そして、生き返らなかった。

ねこにとって、白いねこと一緒に生きることは、それまでとは格段に違うものであった。ねこが白いねこと一緒につくりあげてきた生活は、ねこにとって、とても大切なものだったのである。ねこは、白いねこと共に生きることに喜びを感じ、よりよく（いきいきと）生きることを学んだ。

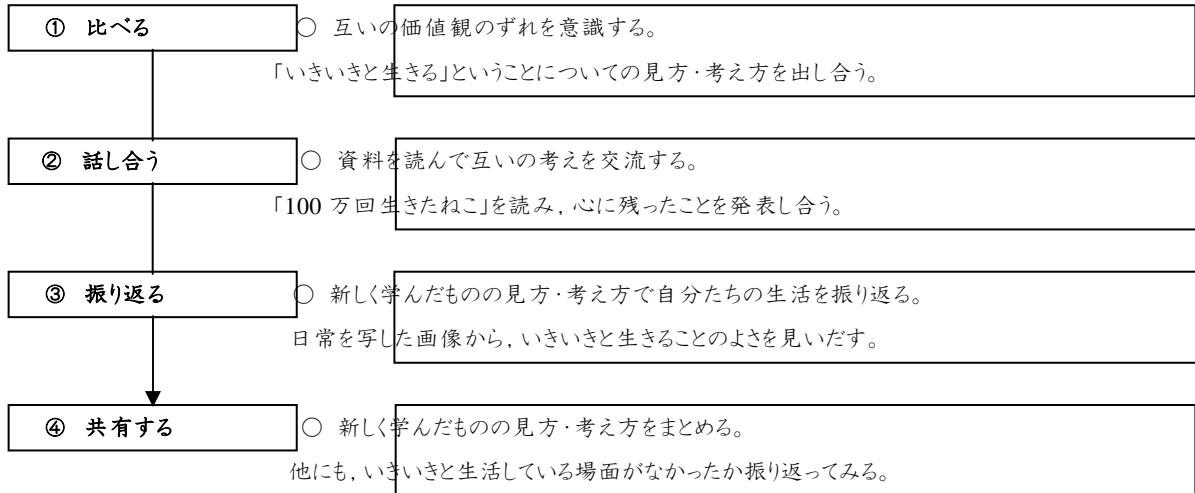
子どもたちは、日々いきいきと生活している。そのような生き方は、周りの人々とのかかわりの中で生み出される。本資料には、このようなことに気付かせ、「生命」についてものの見方・考え方を

広げていく手がかりがある。

(4) 指導にあたっては、次の点に留意する。

この授業では、資料や友だちとのかかわりを通して、「生命」についてのものの見方・考え方を広げていく。そこで、「資料（教材）」「他者」「自分」が深くかかわり合うよう、次に示すような過程で学習を進めていく。

〈 相互作用を生み出す学習過程 〉



① 比べる（互いの価値観のずれを意識させるために）

導入では、「いきいきと生きるってどういうこと」と投げかける。子どもたちに、自分が生きていることを再確認させるとともに、改めて「生命」について考えるきっかけを作り出す。子どもたちそれぞれの、見方・考え方の違いを浮き彫りにし、資料へと入っていく。

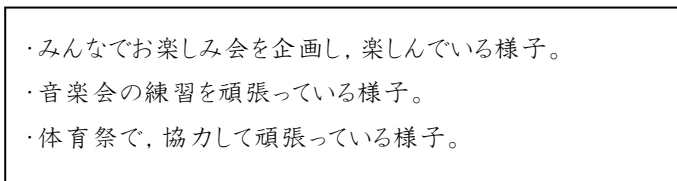
② 話し合う（互いの見方・考え方を交流させるために）

上記のような活動を行うことで、資料を読んで、互いの見方について考えてみようとする意識が生まれてくる。展開前段では、BGMを流したり、挿絵をプロジェクターで提示したりしながら読み聞かせることで、資料の世界にスムーズに入っていけるようにしたい。

中心場面では、ねこが生き返らなかったわけを考えさせることで、いきいきと生きることのよさ（喜び）や、そのような生き方が他者とのかかわりの中で生じることに焦点化していく。

③ 振り返る（新しく学んだ見方で、自分たちの生活を振り返らせるために）

振り返りの場面では、自分たちの生活の中から「いきいきと生活している場面」を見いだすという活動を行う。ここで提示するのは次の画像である。



画像に写っている本人に、その時の心の動き（みんなのことを考えて行動したり、共に楽しんだこと等）を語らせていくことで、他の子どもにも同じような経験がなかったかを振り返らせていく。

④ 共有する

終末では、上記以外の画像から、ペアでお互いにこれまでの生活を振り返らせていく。そうすることで、友だちとのかかわり、いきいきと生活することのよさを実感させたい。

3 本時の学習

(1) 目標

生きることのよさを、「100万回生きたねこ」という話や画像資料から見いだすことによって、いきいきと生きていこうとする意欲を高める。

(2) 展開

時間	学習活動	子どもの思い・姿
10	1 「いきいきと生きる」ということについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 喜んだり，悲しんだりすること。 ○ 夢中になって勉強したり，遊んだりすること。 ○ 何でも頑張ること。 ○ 家族や友だちと楽しく過ごすこと。
20	2 資料「100万回生きたねこ」を読んで話し合う。 (1) 心に残ったことを発表し合う。 (2) ねこが生き返らなかったわけを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ どんなお話だろう。 ○ 白いねこが死んで，ねこは悲しかったらうな。 ○ もっと一緒にいたかったらうな。 ○ どうしてねこは生き返らなかったんだらう。 ○ とっても幸せだったから。 ○ 生きる楽しさを知ったから。 ○ 自分よりも大切なものが見つかったから。 ○ いつまでも家族との思い出を大切にしたいから。
10	3 日常生活を写した画像を見て，いきいきと生活していることについて振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ みんなを楽しませようと出し物を工夫しました。 ○ 心を合わせて演奏しました。 ○ 勝つために，毎日バトンパスを練習しました。
5	4 ペアで，これまでの生活を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他にもありそうだ。 ○ 仲よく休み時間に遊んでいるね。 ○ 給食時間のおしゃべりがとっても楽しみ。

本時の
主張

子どもたちは、資料や友だちとかかわりながら、「生命」についての見方・考え方を広げていきます。さらに、日常生活を写した画像を提示し、本時で学んだ見方・考え方で、これまでの自分を振り返っていきます。

学びが好きになるための教師の指導（発問、指示、教材・教具、評価）

「いきいきと生きる」ってどういうことだと思いますか

- 子どもたちに、自分が生きていることを再確認させるとともに、改めて「生命」について考えるきっかけをつくり出す。子どもたちそれぞれの、見方・考え方の違いを浮き彫りにし、資料へと入っていく。
- プレゼンテーションソフトを使用し、BGMを流しながら資料を提示することで、資料の世界に浸りやすくする。

お話を聞いて心に残ったことはありませんか。

【教具】

プロジェクター
スクリーン CDラジカセ

- 資料を読んで考えたことや心に残ったところを出し合わせながら、話し合いを進めていく。

ねこは、どうして生き返らなかったのでしょう。

【教具】

道徳ノート

- 中心場面では、ねこが生き返らなかったわけを考えさせることで、生きることのよさ(何かに夢中になったり、楽しんだり、身近な人とかかわりが深まったりすること等)について焦点化していく。

私たちも、いきいきと生活していませんか。

【教具】

プロジェクター
お楽しみ会の様子等、子どもたちの日常生活を写した3枚の画像

- お楽しみ会をしてみんなで楽しんでいる場面等の3枚の画像を提示し、そのときの子どもの心の動きを本人に語らせていくことで、他の子どもたちも同様の経験をしたことを想起させ、その時の気持ちを思い出させていく。

- 終末では、上記以外の写真を用い、様々な場面でいきいきと生活している様子をペアで振り返らせていく。そうすることで、友だちとかかわっていきることのよさを実感させたい。

【評価】

自分たちの、いきいきとした生活場면을振り返ることができたか。